ニューズレター

SDM NEWS

“納期短縮の8つのワザ”を極める「タイム・マネジメント特別講座」:手法を実践的に習得するための演習

2014年 10 月号

行事予定

2014年10月29日(水)
インダストリアル・インターネット　シンポジウム ～欧米が進めるグローバルな産業・製造業の革新への取り組みと動向～
@日吉キャンパス
http://www.sdm.keio.ac.jp/2014/10/29-101441.html
要事前登録

2014年11月16日(日)
2014年度第3回公開ワークショップ「かけ算のデザイン、三方一両得のデザイン」
@日吉キャンパス
http://www.sdm.keio.ac.jp/2014/11/16-110903.html
要事前登録

2014年11月18日(火) ほか
未来型経営論～人間中心のマネジメント、リーダーシップ
@日吉キャンパス
http://www.sdm.keio.ac.jp/2014/11/18-144648.html
要事前登録

2014年11月18日(火)
宇宙・G空間技術イノベーションのグローバル展開と人材育成：G-SPASE
@三田キャンパス北館ホール
http://gestiss.org/
要事前登録

2014年11月24日(月)、29日(土)、30日(日)
グローバルイノベーション人材育成連携プログラム　2014年度秋学期グローバルイノベーション人材育成集中ワークショップ
@日吉キャンパス
http://www.sdm.keio.ac.jp/2014/11/12-140936.html
要事前登録

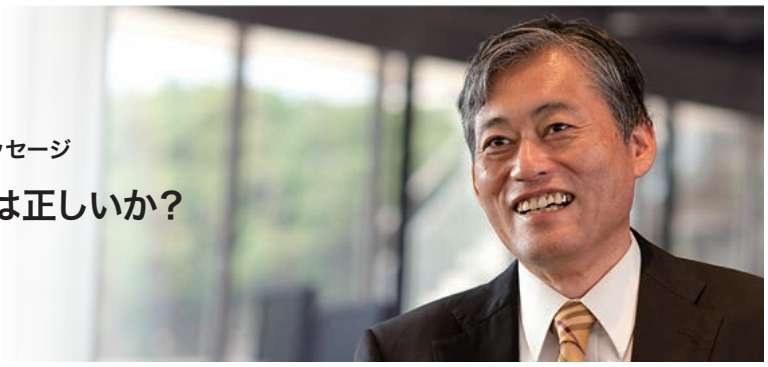
2014年11月29日(土)、30日(日)
アジア太平洋宇宙世代ワークショップ(AP-SGW)
@日吉キャンパス
http://www.spacegeneration.org/index.php/en/home-news/news/1081-sgac-announces-the-first-edition-of-asia-pacific-regional-space-generation-workshop
要事前登録

2014年12月20日(土)、21日(日)
「G空間未来デザインプロジェクト」ハッカソン
@二子玉川ライズ
http://gfuturedesign.org/
要事前登録

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。
http://www.keio.ac.jp/ja/event/201410/201410_index.html

通算71号　2014年10月発行

SDM
System Design and Management



専任教員からのメッセージ

社会の通説は正しいか？

経営学を中心に、通説を覆す定性的理論研究が注目されています。スワンが白いという通説はオーストラリアでブラックスワンを発見することによって覆った歴史をもとに、「ブラックスワンの経営学」という書籍も出ています。経済や社会システムでも通説はいつも正しいとは言えないようです。円安になればものづくり企業の輸出が増えて日本経済は良くなるという通説は、現在怪しくなりつつあります。高税率、高為替、高給与、高金利、短時間労働に対する否定的な見解と現地生産、成果主義などに対する肯定的な見解はもっと見直されるべきかもしれません。高税率のデンマークやフィンランドは社会保障によって、通貨の高いスイスはそれに伴う給与の高さによって、知識と技術を有する人材を確保して発展しているように見えます。World Economic Outlook Databaseによれば、2013年のこれらの国の一人当たりGDPは日本より上位にあります(スイス4位、デンマーク6位、フィンランド14位、日本24位)。もちろん一人当たりGDPが高いから幸せかどうかは議論の余地がありますが、日本が海外から若手の優秀なグローバル人材を獲得しようとしても、過酷な労働環境と低賃金によって難しい場合が多いでしょう。

ところで、SDM研究科では、デザインゲームとビジネスゲーム(シリアスゲーム)を融合したマネジメント教育プログラムを開発しています。本年はマサチューセッツ工科大学、スイス連邦工科大学とともに慶應義塾学生向けに授業やセミナーを実施しています。英語で行っているため留学生も多く参加しており、国際的な教育の場になっています。今後は社会人向け教育プログラムとしても拡張していく予定です。その中では、上記のような通説を覆すことを学ぶ発想法とグループで楽しく学べるシリアスゲームを取り入れていきたいと考えています。

SDM研究科教授　中野 冠

最近のニュース

TOPIC 1　盛況だった第2回農業・農村・地域活性化セミナー

盛況だったセミナーの模様

SDM研究所農都共生ラボ・地域活性ラボの主催で、2014年9月30日(火)、「第2回 農業・農村・地域活性化セミナー」が、日吉キャンパス独立館において開催された。全国各地から、研究者や地域活性に携わる方達など、募集定員の100名を超える参加者があり、熱気に包まれた。

今回のテーマは「双方向で活性化する 地域ブランディングの効果的な進め方」。講師は中嶋聞多特別招聘教授(事業構想大学院大学教授)と、林美香子特任教授。中嶋教授は地域ブランディングや地域ブランド戦略について、長野県小布施町や 徳島県神山町などの成功例とともに講演。林特任教授は、農都共生(農村と都市の共生)をテーマにしたフィールドワークをもとに、全国各地で取り組まれている地域コミュニティビジネスのブランド化について講演し、その後、活発な質疑応答が続いた。また。終了後の懇親会には、50名を超える参加があり、地域活性をテーマに交流を深めた。

政府の重要方針「地方創生」に代表されるように、地域活性はとりわけ関心の高いテーマ。来年春に3回目のセミナーを開催し、さらに深く掘り下げていく予定である。

TOPIC 2 “納期短縮の8つのワザ”を極める「タイム・マネジメント特別講座」開講

蟹江講師による納期短縮の講義

2014年8月8日(金)、日吉キャンパスにおいて、マネジメントデザインセンター主催による一般向け公開セミナー「タイム・マネジメント特別講座」が開催された。本講座では、「納期短縮の8つのワザを極める」と題して、プロジェクトマネジメントの中で最も重要だと言われるQCD (Q:品質、C:コスト、D:納期) のバランスを取るための納期短縮手法を、演習を含めて実践的に身につけようとする企画で、15名の受講生が参加した。

セミナーの前半は、プロジェクトの時間管理がいかに重要であるかを学ぶ、慶應SDM当麻哲哉准教授による講義とクイズ、後半は株式会社iTiDコンサルティングの蟹江淳講師によるDSM (Design Structure Matrix) を用いた手戻りを少なくするアクティビティ順序設定方法、および具体的な納期短縮の8策を学ぶ演習であった。

演習の課題は、部品の納入遅れが発生して、新規モデルのリリースがシーズンに間に合わなくなるとのトラブル報告を受け、様々な制約条件の中、学んだ手法をどう駆使して納期に間に合わるかというもの。様々な業界から参加した15名の受講生は、3つのグループに分かれて学んだ手法を実践し、8策の使い方を習得した。講座のあとはネットワーキングを行い、異業種交流の良い機会となっていた。

マネジメントデザインセンターでは、今後も同様なプロジェクトマネジメント知識エリアの特別講座を年1～2回、開催していく予定である。

TOPIC 3 有人火星ミッションデザイン国際学生コンテストにおいてSDM研究科学生を中心とした日米合同チームが優勝

Kshitij Mall君(前列左)、飯野翔太君(中列左から2人目)およびTeam Kanauのメンバー

世界で初めて自費で宇宙旅行をしたデニス・チトー (Dennis Tito) 氏が設立した火星に初めて人類を送ることを目指している財団「インスピレーション・マーズ財団」による有人火星ミッションデザイン国際学生コンテストが2014年8月9日(土)に開催された。そのコンテストには世界11カ国から参加した38 チームが参加し、修士2年 飯野翔太君およびPurdue University (米国) からSDM研究科への交換留学生Kshitij Mall君を中心とした日米合同チームのTeam　Kanauが優勝した。

コンテストサイト:
▶ http://www.marssociety.org/home/press/announcements/teamkanauwinsinspirationmarsstudentdesigncontest

チームサイト:
▶ http://kanau-mars.jimdo.com

TOPIC 4 SDM専任教員合宿を開催

左:一の湯小川社長のご挨拶
右:合宿を終えてほほ笑む一同

慶應SDMの過去・現在・未来について議論し、将来の教育・研究の戦略づくりを行う専任教員合宿が、2014年8月18日(月)と19日(火)の2日間、箱根の老舗旅館「一の湯本館」にて開催された。合宿の冒頭では、一の湯の小川社長から、代々受け継いできた老舗の高級日本旅館を改革し、庶民でも気軽に泊まれる温泉旅館へと変身させたいきさつを語っていただき、慶應SDMにも通ずる、現状に満足せず常に挑戦する精神を学んだ。

合宿では慶應SDMの設立準備の頃を振り返り、どのような議論の末に現在のSDMが設立に至ったのか、当時の熱い思いを、設立後に加わった教員たちにも共有した。そして現状の良いところと悪いところを整理し、これからのSDMをどうしていくべきなのか、向かっていく方向性につき徹底的に議論し合い、将来に向けた専任教員間の教育連携、研究連携のプラン作りを、2日間に及んで精力的に行った。また、学生部にも参加してもらい、普段から学生との窓口でありSDMの運営を支えている事務の立場で、多くのインプットをもらい、有意義な2日間となった。

合宿から戻った教員らは、さっそく個別の連携プランに基づき、具体的な活動を進めている。今後の慶應SDMの新たな挑戦に、ぜひご期待いただきたい。

TOPIC 5 「プロジェクト・デザイン合宿研修」の説明会を開催

左:昨年度の受講生からひとこと
右:プロジェクトのデザイン能力について語る高橋ヘッドコーチ

11月から12月にかけて二泊三日の合宿を2回行う「プロジェクト・デザイン合宿研修」の説明会が、2014年8月20日(水)に日吉にて開催された。説明会では、はじめにヘッドコーチを務める高橋良之講師から、プロジェクトに必要なデザイン能力についてショート講義があり、そのあと、セミナーコーディネータの当麻哲哉准教授から、本研修の趣旨と目指している人材育成について、そして昨年度の受講生を代表して2名の方に受講の感想や学んだスキル、業務への活用について体験談を語ってもらった。

およそ30名の参加があり、それぞれの説明に熱心に耳を傾けていた。修了後、さらに詳しく知りたい方や、個別の相談がある方に残っていただき懇談会が行なわれ、受講に対する質問や申し込み方法について、具体的な個別相談があり、受講を検討している方の不安や疑問を解消する場となった。

本研修の開催は、前半が11月4日から6日、後半が12月2日から4日の合計6日間となっている。最終日には全課程修了者に修了証が手渡され、さらに希望者にはPMP資格保持のためのPDU受講証明書も発行する。今年もすでに20名を超える受講生からの申し込みが来ており、開講に期待が寄せられている。

TOPIC 6 農都共生ラボ(アグリゼミ)長野県小布施町視察

小布施の栗菓子店での聞き取り調査

農林中央金庫寄付講座の農都共生ラボ(アグリゼミ)では、毎年恒例になっている農村視察研修として、今年は、2014年8月24日(土)～8月26日(火)、長野県小布施町への視察を行った。今夏、慶應SDM・小布施ソーシャルデザインセンターが開設されたのを受け、その研究活動の一環として実施された。林美香子特任教授、保井俊之特別招聘教授をはじめ、学生、研究員など、総勢13名の参加があった。

小布施は、「栗と北斎と景観」により、地域活性化の先進的自治体として有名な町。今回は、これらの視点に加え、寺境内でのスポーツによる地域づくり、六次産業化などの新しい地域活性化の取り組みも視察した。また、農家民宿や農作業を通した町民のみなさんとの交流は、都会の学生たちにとり貴重な体験となった。

最終日には、「未来の小布施の農業」をテーマに、町民もまじえたワークショップを開催し、農業活性化策を寸劇の形で提案した。視察後、学生たちが報告書をまとめ、小布施町に提出したが、今後も小布施町をフィールドにした研究を継続していく予定である。

TOPIC 7 「こと」ものづくりシンポジウム「日本企業のイノベーション創出の課題と対策」

左：中野冠教授「日本企業の抱えるイノベーションの阻害要因～グローバルこともづくり研究会から～」
右：富士通株式会社　知的財産活用ビジネス統括部　吾妻勝浩氏「他社知財を活用したビジネスの創出」

2014年9月5日(金)「こと」ものづくり研究会シンポジウム第1回「日本企業のイノベーション創出の課題と対策」が開催された。「こと」ものづくり研究会とは、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科中野冠教授を中心とした産官学のさまざまな分野の専門家が集まった研究会である。本研究会では、従来の「もの」だけでなく、「こと」づくり、すなわち経営と技術をどのようにしてマネジメントし、イノベーションを創出するべきか議論を重ねている。

今回のシンポジウムでは、企業内でイノベーションがなぜ生み出されないのか、また、企業内の素晴らしい技術が事業として何故失敗するのか、日本企業の抱えるイノベーションの阻害要因を探るとともに、技術をマネジメントした「こと」づくりの成功事例、また投資家の視点で、どのような事業に投資するのか各専門家にご講演頂いた。

まず、冒頭の当研究科の当麻哲哉准教授によるマネジメントデザインセンターの紹介では、日本が国際競争力を高めるためには、プロジェクトマネジメントのできる人材育成の重要性を説明した。次に、当研究科の中野冠教授の講演では、日本企業の抱えるイノベーションの阻害要因を明らかにするとともに、グローバル企業として成功を収めているスイス企業と比較し、要素技術、外部の技術、外部のサービス、自ら構想したサービスをつなぎ合わせるインテグレータとなる人材の育成や仕組みの構築が重要であるとの説明を行った。また、当研究科の顧問でもあるスタンフォード大学福田収一客員教授、当研究科の都丸孝之特任講師から、日米の新規事業創出の風土の違いを明らかにするとともに、日本経営者が学ぶべき新事業創出のあり方を講演した。

富士通株式会社 知的財産活用ビジネス統括部 吾妻勝浩氏は、他社知財を活用したビジネスの創出というタイトルで、企業内で使われない特許を、自治体、中小企業と連携し、特許を有効活用するこれからの新しいビジネスを講演した。最後に、株式会社産業革新機構 投資事業グループ 是永基樹氏の講演では、大学研究室、ベンチャー・中小企業、大企業に埋もれている技術・アイデアを掘り起こし、事業化するまでの事例を複数ご紹介頂いた。

今回のシンポジウムでは、定員を超える応募があり、また、シンポジウムを通じて数多くの企業が当研究科の「こと」ものづくり研究会に参加することになり、今後ますます多様性に富んだ研究会になると期待される。

TOPIC 8 講演会「ビジネスマネジメントの新潮流」の開催

SDM研究科付属マネジメントデザインセンター主催セミナー「ビジネスマネジメントの新潮流」を2014年9月12日(日) に開催した。デザイン思考、システムズエンジニアリング、プロジェクトマネジメントに関する講演会はこれまでも行っているが、本年ビジネスに関する様々な講演会を行う計画であり、本講演会はその活動の一環である。当麻哲哉准教授がセンターの紹介を行った後、高野研一教授が、組織風土と業績および社員満足度の関係について講義し、富田欣和特任講師が「イノベーションはマネジメント出来るのか?」という観点からイノベーション・マネジメントの基本的な解説を行い、中野冠教授が持続可能性の定義を説明したうえで、グリーン・リスクマネジメント・競争力の観点からものづくりを俯瞰する講演を行った。定員80人の会場がほぼ満席となり、活発な質疑応答が行われた。セミナーの後、ファカルティラウンジでネットワーキングが行われた。

TOPIC 9 日本創造学会授賞式

授賞式の様子

修士課程修了生の今泉友之君、白坂成功准教授、保井俊之特別招聘教授、前野隆司委員長による論文「親和図と2軸図を用いた構造シフト発想法の主観的評価」が日本創造学会論文賞を受賞した。

また、博士課程学生富田欣和君の昨年度研究大会における発表「「システム×デザイン思考」を用いた創造性教育手法－高等教育および中等教育への適用事例」が研究大会発表賞を受賞した。いずれも2014年10月25日(土)に産能大で開催された研究大会で表彰された。

TOPIC 10 SDM研究科協力のロボット宇宙飛行士「キロボ」会話実験プロジェクトがグッドデザイン賞を受賞

国際宇宙ステーションでの「キロボ」

SDM研究科が研究協力し、修士2年西嶋頼親君が主要メンバーとして推進したロボット宇宙飛行士「キロボ」会話実験プロジェクトが、2014年度グッドデザイン賞を受賞した。同プロジェクトは、株式会社電通、東京大学先端科学技術センター、株式会社ロボガレージ、トヨタ自動車株式会社が実施し、宇宙航空研究開発機構が協力している。

コラム 安心安全を実現する第三者機関の必要性

最近、筆者への企業や官公庁からの外部監査委員の要請が多い。欧米では、古くから保険制度が発達し、公平かつ透明性のある保険料率の設定ができる歴史と権威がある第三者機関が多い。有名なのは、Lloyd’ sであるが、日本では第三者機関の活用の歴史が浅い。しかしながら、福澤先生が『西洋事情』(慶応3年(1867年)) で近代的な保険事業を初めて日本人に紹介したのを知り、その慧眼に敬服した。現在のわが国では利害関係のない学識経験者で構成されることが多いが、いずれ限界が来るかも知れない。きちんとしたシステムをデザインすることが急務である。

(高野)

ラボ・センター紹介

VSEセンター (Japanese VSE Center)

代表: 神武直彦准教授　　メンバー: 白坂成功准教授、当麻哲哉准教授、塩谷和範(SDM研究所研究員)、静永誠(SDM研究所研究員)、竹内元子(SDM研究所研究員)、修士課程学生、博士課程学生

VSEセンターは、中小企業あるいは大企業の小規模な部門やプロジェクトといった小規模組織(Very Small Entities、以下VSE) でのシステム開発におけるプロセスの改善を推進する組織として2011年2月に発足致しました。

活動目的

(1)IT企業の体力を高め国際競争力を強化する
(2)日本が得意分野とするモノ作りのプロセスを構築し、国際的優位な立場を築く

活動内容

VSEセンターは、VSE国際標準(ISO/IEC29110シリーズ)を活用し、実際のシステム開発の現場の改善に貢献することを目指し、産官学連携によって既に幾つかの成果を生み出しています。VSE標準は、小規模組織でも導入できるコンパクトな開発プロセス標準と、その利用手引きを制定しているだけでなく、普及のための国際センターとしてVSEネットワークを各国のボランティアが運営し、各種ドキュメントやツールを無償提供し支援しています。また、2013年にはシステム向けVSE標準が制定され、さらに日本案(SPINA3CH) に基づく自律的改善標準やVSE向けのアセスメント/監査標準などの審議が進んでいます。国内では、情報サービス産業協会(JISA) から世界初の解説書「VSE標準導入の手引」が出版され、VSEネットワークでも紹介されており、横浜市の協力で、神奈川県情報サービス協会会員向け入門セミナーなども実施されています。また、今年度から、JISAと組込みシステム技術協会(JASA) との合同委員会で、組み込み分野を含む「モノづくりプロセス」を支援するセキュリティとセーフティを組込んだVSE標準策定の検討が始まっており、低コストだけでなく高品質な開発が求められ、コンパクトなVSE標準の重要性が高まってきています。VSEセンターも設立以来上記活動の一助を担っており、研究員は国際/国内委員エキスパートとして活躍しています。

VSEセンターポータルサイト:
▶ http://www.vse.jp/

書籍紹介
『位置情報ビッグデータ』

GPS衛星や準天頂衛星といった人工衛星を中核とする宇宙測位システムの整備が進む一方で、携帯電話をはじめとした地上ネットワークが爆発的に拡大しており、多様なセンサと連動してヒトやモノの状態や位置に関するデータを取得し、どこで何が起き、どう活動しているのかを迅速に把握、解析できる環境が整いつつある。こうした環境の変化は、限られた種類や量のデータの利活用を前提に展開されてきた様々なサービスの革新および再構築を行う可能性を持っている。本書は、そのような大量の位置情報を中心としたビッグデータを活用して新しいサービスを創出したいと考えているビジネスパーソンを主な対象として書かれた入門書である。

1章では、位置情報ビッグデータとビジネスの関係を示し、2章でその市場規模について述べている。3章では、これから位置情報サービスの分野に参入することを考える方々に向けて、その技術的な仕組みを中心に解説している。そして、4章では、今やコモディティとなったGPS受信機を用いたサービスをはじめとして次々と登場する新サービスについて紹介をしている。5章では、位置情報ビッグデータを扱う上で重要となるプライバシーの問題を解説し、6章では、今後の展望としてO2Oやインドア位置情報サービスについて述べている。また、ビッグデータと時を同じくして注目を集めているオープンデータを取り巻く状況やデータのライセンスについても解説を加えている。

本書は、位置情報とビッグデータという今後のビジネスシーンのみならず、都市や社会の仕組みの変化にまで俯瞰的に視点を拡げ、政府や地方自治体の政策立案や企業経営、新規事業など、各分野の第一線で活躍されているスペシャリストによるインタビューも数多く取り入れている。読者が自ら未来社会を切り開く際に役立つ1冊になればと願っている。

著者:神武直彦准教授、中島円特任講師他
出版社:インプレスR&D
2014年4月17日

位置情報ビッグデータ(Next Publishing):▶ http://www.amazon.co.jp/ 位置情報ビッグデータ -NextPublishing- 神武 - 直彦 /dp/4844396218

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所
〒223-8526　神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1　慶應義塾大学　協生館
Tel : 045-564-2518　Fax : 045-562-3502　E-mail : sdm@info.keio.ac.jp

SDM System Design and Management